

大阪市長 橋下 徹様

日本軍「慰安婦」に関する橋下市長発言への抗議文

この度の日本軍「慰安婦」に関する橋下市長の一連の発言に、大いなる憂いと怒りをもって抗議の意を示します。行政の長の言動は、沢山の人々に大きな影響を与えます。橋下市長の発言は、人々に多大なる不快感と政治不信を与えました。女性の人権を認めず尊厳を踏みにじる発言に言葉を失う程です。自らの発言の中身が政治家としてのみならず人としてもどうであったのかを顧みて、全ての人に心からの謝罪を求めます。

「銃弾が雨嵐のごとく飛び交う中で命をかけて走っていくときに、精神的にも高ぶっている猛者集団をどこかで休息させてあげようと思ったら、『慰安婦』制度が必要なのは誰だってわかる」という発言は、まず猛者集団をうみだす戦争を肯定し、ご自分の思考が誰にも共感を得るものと誤った認識を持っています。その上で、有事の中で休息を必要とする男たちの為に、「慰安婦」である女性たちが差し出されることは、しごく当たり前だという人権無視の思考が存在しています。

上記発言に止まらず、市長は普天間に行った際、沖縄の海兵隊の司令官に「もっと風俗業を活用して欲しい」と言い、それを聞いた司令官が「凍り付いたように苦笑いになってしまった」にも関わらず更に厚顔無恥な発言を続けました。市長の執拗な言葉は聞く人が耳を塞ぎたくなるような不快なものでした。その後、沢山の抗議を受け、市長は米軍に「風俗業を活用して欲しい」と言った表現については不適切だったとしながらも、発言の撤回はしないと述べています。擁護すべきは、性暴力被害にあう女性や子どもたちの身の安全であり、それを風俗業活用の話に展開していくのは、的が外れています。沖縄に基地がなければ、米兵による性暴力は起こりえないのですから、真に被害者のことを思うなら基地の廃止を語るべきです。

人間は、尊厳を持って生きるのです。女性は、男性の性のはけ口でなく、性の道具でもありません。一方、発言は男性をジェンダーによってパターン化し、「男性の性」をも侮蔑しています。市長は、「人権感覚のない思考や言葉」を素通りすることなく、口から出た言葉を吟味し、明確に発言の訂正をして、日本軍「慰安婦」の方々、沖縄・女性、ひいては不快感を与えた全ての人に謝罪すべきです。

また、市長は日本だけではなく世界中のどこの国にも「慰安所」制度はあり、「強制連行」した証拠はないと繰り返しています。しかし、日本の「慰安婦」問題は、他国の在り方によって免責されるものではありません。一人の政治家として「慰安所」を軍が管理統制してきたことを確認し、歴史に学ぶ姿勢で「慰安婦」たちの証言に耳を傾けてください。そうで無かったら、永久に彼女らの苦しみ、傷の深さを知ることは出来ないでしょう。もはやこれ以上「なかったことにされる」女性たちの痛みを繰り返さない為にも。

2013年5月17日

日本バプテスト連盟 性差別問題特別委員会